

前年度の改善方策について実行した改善結果

◎ 重 点 目 標 1	(1) 重点目標	時間：「キャリア・未来デザイン教育」を推進する。
	(2) 数値による指標	「意欲的に授業に取り組んでいる」と答える児童を80%以上にする。
	(3) 改善結果 ※学校の自己評価や 学校関係者評価等の 視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の上記項目の児童学校評価の数値結果は79%でありおおむね目標の達成に近づけたと言える。 ・他に「友達と一緒に考えたり、教え合ったりすることは楽しい」「できるようになるために自分なりに頑張っていることがある」が89%を超えるなど将来的な自己実現に向けた素地となる現在の自分への自己肯定感をもちながら努力していることが表れていると考える。
重 点 目 標 2	(1) 重点目標	空間：多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育を推進する。
	(2) 数値による指標	「学校には、自分自身の活躍の場がある」と答える児童を80%以上にする。
	(3) 改善結果 ※学校の自己評価や学 校関係者評価等の 視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> ・児童学校評価の数値結果は、74%であり、前年度77%から数値としては3ポイント減少した。 ・「学校行事は楽しい」は95%、「学校行事は達成感がある」は93%と高いポイントとなっている。 ・授業や行事の中で互いのよさを認め、多様性を尊重することで誰一人置き去りにしない、一人一人の個性が生きる教育を引き続き展開していく。 ・共生社会の実現に向け特別支援学級と通常学級の交流をすすめていく。
重 点 目 標 3	(1) 重点目標	仲間：一人一人が安心して過ごせる学校づくりを推進する。
	(2) 数値による指標	「学校には、ほっとできる場所や時間がある」と答える児童を90%以上にする。
	(3) 改善結果 ※学校の自己評価や学 校関係者評価等の 視点も含む	<ul style="list-style-type: none"> ・児童学校評価の数値結果は、88%であり、目標には届かなかったが、多くの児童が安心して過ごすことができたと言える。 ・今後も否定的評価をしている児童の様子に目を配り、見過ごすことなく一人一人の居場所の確立を目指す。 ・子どもたちの「やりたい」を実現し、安心して自分を出すことができる仲間づくりを引き続き工夫していく必要がある。